

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
測点毎に測定する。 法面は直角に測定する。		
測点毎に測定する。 測線間隔 20m 以下 測点間隔 10m 以下 (陸上) 測点間隔 20m 以下 (水中)		
		+: 設計値よりも浅いことをいう -: 設計値よりも深いことをいう

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
11	4	5	2		床掘工	水深 (底面) 水深 (法面)	±300 外側 2,000 内側 300
11	4	5	6		置換工	延長 天端高	-0 ±500
11	4	5	7		敷砂・碎石マット	延長 天端高	-0 ±300

単位：mm

測 定 基 準	測 定 簡 所	摘 要
測点毎に測定する。 測線間隔 20m 以下 測点間隔 10m 以下 (陸上) 測点間隔 20m 以下 (水中)		
杭全数		+：設計値よりも浅いことをいう -：設計値よりも深いことをいう
杭全数		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	5 海上地盤改良工	6 圧密・排水工		載荷土砂	延長	-0
						天端高	±500
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	5 海上地盤改良工	8 締固工		サンドコンパクションパイプ	天端高	-0
						先端深度	+0
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	5 海上地盤改良工	9 固化工		深層混合処理杭	天端高	-0
						先端深度	+0

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
測線及び測点間隔は 10m 以下		注) — 1 係留施設・護岸・土留壁等の背面については荒均しを適用しない
測線間隔 10m 以下		
法線上		
測線及び測点間隔は 10m 以下		注) — 2 係留施設・護岸・土留壁等の背面については荒均しを適用しない
測線間隔は 10m 以下測点 3 点以上、但し、マウンド厚 2m 以下の場合には 2 点以上		
測線間隔 10m 以下		
法線上		
1 枚に 2 点		
マットの中心を区間毎および全長		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	6 基礎工	4 基礎捨石工		本均し	天端高	±50	
						天端幅	-100	
						延長	-100	
						天端高	±500	
						(岸壁前面)	+0、-200	
	(異形ブロック整積面)	±300						
	11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	6 基礎工	3 洗掘防止工		アスファルトマット	法面	±500
							(異形ブロック整積面)	±300
							天端幅	-100
							延長	-100
重ね幅							500 以上	
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	6 基礎工	3 洗掘防止工		繊維系マット	延長	-100	
						重ね幅	500 以上	
						延長	-100	
						重ね幅	300 以上	
						延長	-100	
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	6 基礎工	3 洗掘防止工		合成樹脂系マット	延長	-100	
						重ね幅	300 以上	
						延長	-100	
						重ね幅	300 以上	
						延長	-100	

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
完成時、四隅		参考 様式・出来型 5-1-1
各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端		
各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端		
各層完成時、各壁 1 箇所		
底版完成時、各室中央部 1 箇所		
底版完成時、四隅		
底版完成時及びひ完成時		
各室中央部 1 箇所		
据付完了後、両端 2 箇所		参考 様式・出来型 5-2-1
据付完了後、天端 2 箇所		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
11 港 湾 ・ 漁 港 ・ 漁 場 編	4 一 般 施 工	7 本 体 工 (ケ ー ソ ン 式)	2 ケーソン製作工		ケーソン製作工	高さ	+30、-10
						幅	+30、-10
						長さ	+30、-10
						壁厚	±10
						底版厚さ	+30、-10
						フーチング高さ	+30、-10
						対角線	±50
						バラスト	砕石・砂 ±100 コンクリート ±50
11 港 湾 ・ 漁 港 ・ 漁 場 編	4 一 般 施 工	7 本 体 工 (ケ ー ソ ン 式)	3 ケーソン進水据付工		ケーソン据付工	法線に対する出入り	防波堤 ケーソンの質量 2000t 未満 ±200 2000t 以上 ±300 岸壁 ケーソンの質量 2000t 未満 ±100 2000t 以上 ±150
						据付目地間隔	防波堤 ケーソンの質量 2000t 未満 200 以下 2000t 以上 300 以下 岸壁 ケーソンの質量 2000t 未満 100 以下 2000t 以上 200 以下

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 室につき 1 箇所 (中心部)		参考 様式・出来型 I-5-1
1 室につき 1 箇所 (中心部)		参考 様式・出来型 I-6-1
1 室につき 1 箇所		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	7 本体工(ケーン式)	4 中詰工		中詰	天端高	砂、石材 陸上 ±50 水中 ±100 コンクリート 陸上 ±30 水中 ±50
					蓋コンクリート (現場打)	天端高	陸上 ±30 水中 ±50
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	7 本体工(ケーン式)	5 蓋コンクリート工		蓋コンクリート (プレキヤスト)	天端高	陸上 ±30 水中 ±50

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工中適宜、打込完了時 打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点 打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点 施工中適宜、打込完了時（両端部） 打込完了時、20枚に1枚 打込完了時、10本に1本及び計画法線の変化点 打込完了時、全数確認後10本に1本及び変化点 施工中適宜、打込完了時（両端部） 打込完了時、10本に1本		参考 様式・出来型 1-8-2
打込完了時、全数 打込完了時、全数 打込完了時、全数		参考 様式・出来型 1-10-2 (1) 1-10-2 (2)

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	1 1 本體工（鋼矢板式）	2 鋼矢板工		鋼矢板	延長	+ 矢板1枚幅 -0
						法線出入り	±100
						法線に対する傾斜	10/1000h 以下
						法線方向の傾斜	上下の差が 矢板1枚幅 未滿、かつ 10/1000h 以下
						矢板天端高	±100
						法線出入り	±100
						法線に対する傾斜	10/1000h 以下
						法線方向の傾斜	上下の差が 矢板1枚幅 未滿、かつ 10/1000h 以下
						矢板天端高	±100
						11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工
杭天端高	±50						
杭の傾斜	直杭 2° 以下 斜杭 3° 以下						

単位：mm

測 定 基 準	測 定 簡 所	摘 要
打込完了時全数		
打込完了時全数		
打込完了時全数		
測線および測点間隔は10m以下		
測線間隔は10m以下、測点3点以上 但し、マウンド厚2m以下の場合 は2点以上		
測線間隔10m以下		
天端中心上		
法線上		参考 様式・出来型 14-1 (1) 注) 本体がケーンの 場合 2000t 未満 ±200 2000t 以上 ±300
1 スパン2 箇所		
天端面は1 スパン4 箇所以上 パラペット頂部は 1 スパン2 箇所以上		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	1 4 本體工(コンクリート杭式)	2 コンクリート杭工		コンクリート杭	杭頭中心位置	
						杭天端高	直杭 2° 以下 斜杭 3° 以下
						杭の傾斜	
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	1 5 被覆根固工	2 被覆石工		被覆石均し	天端面 (岸壁前面)	±500 +0、-200
						法面 (異形ブロック乱積面)	±500 ±300
						天端幅	-200
						延長	-200
						延長	-0
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	1 6 上部工	2 上部コンクリート工		防波堤	法線に対する出入り	注) ±50
						天端高又は厚さ	天端幅10m以下 ±20 天端幅10m超 +50、-20
						天端幅	天端幅10m以下 ±30 天端幅10m超 +50、-30

単位：mm

測 定 基 準	測 定 簡 所	摘 要
取付完了後、測定端子取付箇所毎		
測線および測点間隔は 10m 以下		
測点 3 点以上		
測線間隔 10m 以下		
天端中心上		
測点毎に測定する。 法面は直角に測定する		

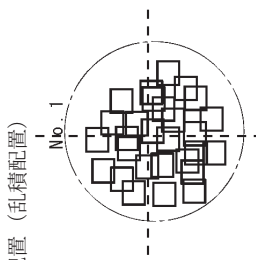
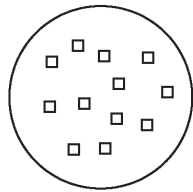
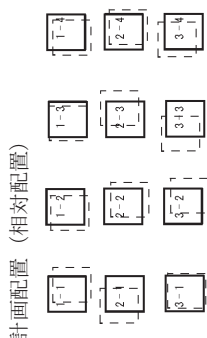
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	1 7 附属工	5 防食工		防食(電防陽極)	電位測定	-770mV
						電位測定	-780mV
						飽和硫酸銅電極基準	-850mV
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	1 9 裏込・裏理工	2 裏込工		裏込	天端面	±200
						(場所打コンクリート面)	±50
						法面	±200
						天端幅	-100
						延長	-100
11 港湾・漁港・漁場編	5 航路・泊地・船たまり・用地	3 浚渫工			浚渫	水深(底面)	+0
						水深(法面)	+0

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
型枠取外し後 10 基に 1 基以上測定		
型枠搬入後適宜		
全数		
10 基につき 1 基の割合で測定する。 ボルトの取付部分は全箇所を観察する。		
高さ、幅、長さは 10 基につき 1 基の割合で測定する。 有害な欠陥の有無は全数を観察する。 のど厚、脚長、溶接長、溶接部非破壊試験は特記仕様書による。		
10 基につき 1 基の割合で測定する。 接続帯の取付は全箇所を観察する。		

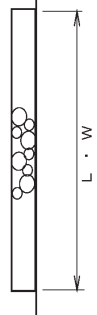
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	2 5 魚礁工	2 単体魚礁製作工		単体魚礁製作工	高さ C	+20 -10	
						幅 A	+20 -10	
						長さ B	+20 -10	
						壁厚 t	±10	
						対角線	管理表を作成し提出	
						型枠形状寸法	観察結果を報告	
						ブロック外観		
	11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	2 5 魚礁工	3 組立魚礁組立工		組立魚礁組立工 (コンクリート部材)	高さ C	±10×部材連数
							幅 E	±10×部材連数
							長さ A	±10×部材連数
						ボルトの取付		
						組立魚礁組立工 (鋼製部材)	高さ C	+30 -10
					幅 E		+30 -10	
				長さ A	+30 -10			
					のど厚、脚長、溶接長	特記仕様書による		
				有害な欠陥の有無				
				溶接部非破壊試験				
					組立魚礁組立工 (化学系・FRP)	高さ C	特記仕様書による	
				幅 E				
				長さ A				
				接続帯の取付				

単位：mm

測 定 基 準	測 定 簡 所	摘 要
10基につき1基の割合で測定する。		
魚礁沈設時に10基に1基以上測定 (GPS及びD-GPS等により測定)	 <p>集中配置 (乱積配置)</p>	
魚礁沈設時に全基測定 (GPS及びD-GPS等により測定)		
沈設後の出来形 集中配置、ゾーン配置は中心点から8 方位を測定 計画配置は特記様書による 出来形図を作成し、記録紙にも寸法を 表示し提出 (音響測深器等により測定)	 <p>ゾーン配置</p>  <p>計画配置 (相対配置)</p>	

編	章	節	条	工 種	測 定 項 目	規 格 値
11	4	1	3	組立魚礁組立工 (重錘コンクリート)	高 幅 長 壁 厚	+30 -10 +30 -10 +30 -10 +30 -10
11	4	2	4	魚礁沈設工	位置 集中配置 (乱積配置) 位置 ゾーン配置 位置 計画配置 (相対配置)	中心点のズレ： 30m ゾーン内 設置位置の ズレ：30m

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
「単体魚礁製作工」を適用		
「組立魚礁組立工」を適用		
「魚礁沈設」を適用		
特記仕様書による (GPS及びD-GPS等により測定) 各3測線以上 (音響測深器等により測定)		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	2 6 着定基質工	2 着定基質製作工		着定基質製作工		
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	2 6 着定基質工	3 着定基質組立工		着定基質組立工		
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	2 6 着定基質工	4 着定基質設置工		着定基質設置工		
11 港湾・漁港・漁場編	4 一般施工	2 6 着定基質工	5 石材投入工		石材投入工	投入位置 幅 B 長さ L	±30m 出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出